慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	石堂清倫・竪山利忠編 『東京帝大新人会の記録』
Sub Title	K. Ishido and T. Tateyama, ed., Records of the shinjinkai
Author	中村, 勝範(Nakamura, Katsunori)
	酒井, 正文(Sakai, Masafumi)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication	1976
year	
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and
	sociology). Vol.49, No.10 (1976. 10) ,p.98- 103
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara _id=AN00224504-19761015-0098

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

紹介と批評

石堂清倫・竪山利忠編

『東京帝大新人会の記録』

ズムへの取締りが、苛烈をきわめるなかで解散した。の昻揚期に誕生し、三・一五事件、四・一六事件等によるコミュニ四(一九二九)年十一月まで存続した。 新人会は 大正 デモクラシー下、新人会と称す)は、大正七(一九一八)年十二月に創立され、昭和下、新人会と称す)は、大正七(一九一八)年十二月に創立され、昭和下、新人会と戦助の先駆的団体として周知の東京帝大新人会(以

新人会会員のうちかなりの人びとは、後年、社会運動史』(中 と表示、政治家、ジャーナリスト、作家、評論家等として、指導的 と表示してきていることも深く考慮しなくてはならない。以上の二点 を残してきていることも深く考慮しなくてはならない。以上の二点 を残してきないものがあるが、現在までのところ、これが総合的 在は無視できないものがあるが、現在までのところ、これが総合的 に研究されたものとしては、Henry Dewitt Smith II, Japan's First Student Radicals (Cambridge, Massachusetts: Harvard First Student Press, 1972)があり、菊川忠雄『学生社会運動家、学者、

対象とするなかで、 期に区別して考察することが研究上便利であろうが、従来、資料収 の範囲に偏在している。新人会十一年間の歴史は、前期、中期、 囲に傾きがあり、内容の集約度の点では新人会の創立から約三年間 座談会等は必ずしも少なくはないが、しかしそれらは、対象とする範 ないかと思う。もつとも、新人会関係者による回想、手記、 向(上)』(平凡社刊 昭和三十四年)中の 二論文が あげられるのでは 生の社会主義運動機関誌―『デモクラシイ』から『無産農民』まで 会の部分的研究としては、佐々木敏二「新人会(前期)の活動と思 央公論社刊 昭和六年、海口書店刊 昭和二十二年)は、 る。これに対し、同十一年四月以降の新人会中期及後期の広報紙と がほぼ定期的に刊行されており、これら機関誌は今日復刻されてい 前期には、機関誌『デモクラシイ』、『先駆』、『同胞』、『ナロオド』 原資料に限つても、創立から大正十一(一九二二)年四月頃 までの 集において、中期及び後期は前期に比較して困難であつた。例えば、 の方面の研究者に多大なる便宜をあたえるものである。 いた同会中・後期の状況が当時の関係者により記述されており、こ 記録』は、新人会前期の諸事情とともに、久しくベールに包まれて 料は研究者の共有の財産 となつていなかつた。『東京帝大新人会 の しては、僅かに会報、ビラの発行に留まり、今日までそれらの原資 (『思想』二六四号 昭和三十八年二月)、 思想 の 科学研究会編『転 (『キリスト教社会問題研究』十三号 昭和四十三年)、 神田文人 「学 新人会の運動をかなり網羅している。また新人 学生運動全般を 随筆

が、帝大・東大史上未曽有の混乱のなかで行われたのである。この学生運動のパイオニアであつた帝大新人会の創立五十周年記念集会が、旧会員約九十名を集めて東大構内、学士会館においてはされていた。前年から講堂を占領してきた学生を実力で排除するされていた。前年から講堂を占領してきた学生を実力で排除するされていた。前年から講堂を占領してきた学生を実力で排除するにあれた。「すぐ隣りの安田講堂は、この日早朝から機動隊に包囲組された。「すぐ隣りの安田講堂は、この日早朝から機動隊に包囲組された。「すぐ隣りの安田講堂は、この日早朝から機動隊に包囲組された。「中国の大学との関立のである。このが、帝大・東大史上未曽有の混乱のなかで行われたのである。このが、帝大・東大史上未曽有の混乱のなかで行われたのである。このが、帝大・東大史上未曽有の混乱のなかで行われたのである。このが、帝大・東大学と称が、帝大・東大学との混乱のなかで行われたのである。このが、帝大・東大史上未曽有の混乱のなかで行われたのである。このが、帝大・東大学とを集めて、中国の大学との関立といて、中国の大学とのである。このが、帝大・東大学とを表している。このが、帝大学とのである。このが、帝大学とは、中国の大学とは、中国の大学とのでは、中国の大学とないでは、中国の大学とは、中国の大学とは、中国の大学を表しまります。

偶然性、皮肉な巡り合わせについて、記念集会参加者のうち、かな

りの者が第一部において言及している。

大共同生活を楽しくやつていく」(五九一六○頁)ことが可能である、共同生活を楽しくやつていく」(五九一六○頁)ことが可能である。大正十四(一九二五)年に卒業した伊藤好道の妻よし子は、亡き夫との出逢いを明かしつつ、「さきほど子供があるんじやないかといわれたんですけれども、当時御承知のように、社会運動なんかやつていく者は、子供をもつてはいけないというような、生力がございまして、大変、健全で子供がもてたんでございますけれども、ついに子供をもたないで生涯を通してしまいました」(五七頁)と述べている。中野重治は、新人会の合宿生活の仲間に(五七頁)と述べている。中野重治は、新人会の合宿生活の仲間に(五七頁)と述べている。中野重治は、新人会の合宿生活の仲間に(五七頁)と述べている。中野重治は、新人会の合宿生活の仲間に(五七頁)と述べている。中野重治は、新人会の合宿生活を送りながつ、「酒をのまない青年が非常に勉強して、清潔な生活を送りながつ、「酒をのまない青年が非常に勉強して、清潔な生活を送りながいる。

れていた姿をうかがうことができる。の中に、新人会会員がひたむきた清潔さを持しつつ、緊張にあけ暮ることがわかり、味わつた経験を貴しという。よし子、中野の言葉

資料としての価値の高さが十分理解されるであろう。 社会運動の客観的状況を念頭におきながら通読するとき、それらの 篇において記述された内容は、以下略述する新人会を取り巻く学生 方高校と新人会」(大正十三年三、四月入会)の六篇がある。 ルメントの歴史」(大正十三<一九二四>年以前入会と推定)、 小沢正元「行人会まで」(大正十一年十二月入会)、東利久「東大セッ 三>年一、二月頃入会)、志賀義雄「『最新の理論』で新しい活動を」 とされた回想には、浅野晃「震災前後の思い出」(大正十二<一九二 会員の回想から構成さる。新人会中期に当る大正十四年以前が対象 (大正十一年三月入会)、畚野信蔵「二つのタイプ」(大正十二年頃入会)、 本書 「第二部 新人会生活の思い出」 は 十二名の旧新人会 西本喬「地 以上の六

正十三年六月、学生連合会は名称を「学生社会科学連合会」と改め、正十三年六月、学生連合会は名称を「学生社会科学連合会」と改め、は、新人会のイニシアチブにより高等学校連盟が結成された。創立は、新人会のイニシアチブにより高等学校連盟が結成された。創立は、新人会のイニシアチブにより高等学校連盟が結成された。創立は、新人会のイニシアチブにより高等学校連盟が結成された。創立は、新人会の大学、高等学校、高等専門の諸学校を席捲した。大正十一年十一月のロシア飢饉教済運動を期とし、学生社会運動大正十一年十一月のロシア飢饉教済運動を期とし、学生社会運動

景に、さきの回想を注視するとき、広範多岐に亙る内容も、以下の『菊川忠雄──その思想と実践』所収 三四二十三五○頁参照)。以上を背動の頂点と見ることができるのである (菊川忠雄「学生社会運動小史」を築きあげていた。要するに、この時期を以て、合法的学生社会運を築きあげていた。要するに、この時期を以て、合法的学生社会運を築きあげていた。その組織も著しく整備され、確固とした勢力その全貌を現わした。その時には、すでに加盟校四十数校、会員一、

点に対象を絞ることができよう。

第一に、学生社会運動を躍進させ、その過程をトータルに表現し席二に、東京帝大セッルメント運動(以下、東京帝大は省略する)への参加がある。関東大震災における東京帝大の救援事業を機に、末の参加がある。関東大震災における東京帝大セッルメント、学内消費により新人会会員の活動分野は、東京帝大セッルメント、学内消費により新人会会員の活動分野は、東京帝大セッルメント、学内消費により新人会会員の活動分野は、東京帝大セッルメント、学内消費により新人会会員の活動分野は、東京帝大セッルメント、学内消費により新人会会員の活動分野は、東京帝大セッルメント、学内消費により新人会会員の活動分野は、東京帝大セッルメント、学内消費により新人会員の活動分野は、東京帝大セッルメント、学内消費により新人会会員の活動分野は、東京帝大セッルメント、学内消費により新人会員の活動分野は、東京帝大セッルメント、学内消費により新人会員の活動分野は、東京帝大セッルメント、学内消費により新人会会員の活動分野は、東京帝大セッルメント、学内消費により新人会員の活動分野は、東京帝大セッルメント、東京帝大の教援事業を機に、末の参加がある。関東大震災における東京帝大の教援事業を機に、末の参加がある。関東大震災とおいる東京帝大の教援事業を機に、末の参加がある。

弘厳太郎の指導で、大正十二年十一月から十二月にかけて設立され

次いで、大正十五(一九二六)年から昭和三(一九二八)

年の期間

童部、 記述を残している。 晃、志賀義雄、小沢正元、 われる (Smith, op. cit., p. 144参照)。 第二部前半に限定すると、浅野 ぼり、セッラー以外の会員の多くも、適宜事業に係わつたものと思 トの初めの頃のセッラー一〇〇名中、 された労働学校であつた。因に、本所柳島における帝大セッルメン ントにおいて新人会が力を入れた事業は、大正十二年六月から開校 ト運動への参加は活動意欲を盛り立てるに格好であつた。セッルメ で十四年間存続した。中期及後期の新人会会員にとり、 セッル メン し、指導者に穂積重遠を加えたが、昭和十三(一九三八)年二月ま たセッルメントは、当初その事業内容に、成人教育部、 医療部、 法律相談部、 東利久が、セッルメントに触れた回想 市民図書部を擁し、その後事業も変遷 新人会会員は三〇名以上にの 調査部、 児

第三は、新人会による各高等学校の社会科学研究団体の指導の面第三は、新人会による各高等学校の社会科学研究団体の指導の高等学校とのパイプから、「大学に入るというよりも、新人会に加高等学校とのパイプから、「大学に入るというよりも、新人会に加高等学校とのパイプから、「大学に入るというよりも、新人会に加高等学校とのパイプから、「大学に入るというよりも、新人会に加高等学校とのパイプから、「大学に入るというよりも、新人会に加高等学校とのパイプから、「大学に入るというよりも、新人会に加高等学校とのパイプから、「大学に入るというよりも、新人会に加高等学校とのパイプから、「大学に入るというよりも、新人会に加高等学校とのパイプから、「大学に入るというよりを対象を対象を対象を対象を表している。

に新人会に入会した六名の旧会員の回想に移ろう。この時代は、前に新人会に入会した六名の旧会員の回想に移ろう。この時代は、前に新人会に入会した六名の旧会員の回想に移ろう。この時代は、前に新人会に入会した六名の旧会員の回想に移ろう。この時代は、前に新人会に入会した六名の旧会員の回想に移ろう。この時代は、前に新人会に入会した六名の旧会員の回想に移ろう。この時代は、前に新人会に入会した六名の旧会員の回想に移ろう。この時代は、前に新人会に入会した六名の旧会員の回想に移ろう。この時代は、前に新人会に入会した六名の旧会員の回想に移ろう。この時代は、前に新人会に入会した六名の旧会員の回想に移ろう。この時代は、前に新人会に入会した六名の旧会員の回想に移ろう。この時代は、前に新人会に入会した六名の旧会員の回想に移ろう。この時代は、前に新人会に入会した六名の旧会員の回想に移ろう。この時代は、前に新人会に入会した六名の旧会員の回想に移ろう。この時代は、前に新人会に入会した六名の旧会員の回想に移ろう。この時代は、前に新人会に入会した六名の記録は、前に新人会に入会に入会に入会に入会に入会に入会に入会に入るというに対した。

あたえた衝撃の大きさがわかる。

一五事件に関するものである。もつてこの二件が当時の学生運動に

想はさらに福本イズムの影響力を生き生きと 描 いている。「これは 著書を買い求め、 忽ち新人会員の間に燎原の火のように流行し、会員は争つて福本の りであつたとも回想する。 イズムに特有の用語をちりばめた先輩会員の演説には舌を巻くばか 々の論 文を めぐつて『理論闘争』 が熱気 をもつてやられていた」 クス主義の旗のもとに』にのつた福本氏と福本イストといわれる人 と、前年来の福本イズムの 影響力の 絶頂期 である。だから、 『マルクス主義』や『政治批判』、それに福本氏の 個人雑誌『マル (一九〇頁)と野田が入会した当時の会の様子を伝 えている。福本 福本イズムの衝撃について、野田弥三郎は それを聖書のようにあがめ、 入学時期は異なるが、下記の西本喬の回 「昭和二年の春という 文章を暗記した。僕 雑誌

団催眠にかかつたのである。

そればかりか、福本イズムの言葉は一種独特な生硬な日本語になつ 子である。答えようにも意味が分らないから答えられない。 没落の…過程を過程しつつあるが、君はどう考えるか?』と言つた調 員もそれを訳のわからないまま鵜吞みにして、 得々としてい のは労働運動のリーダーの資格がないとされた。 あり、それを口にすることは『鉄の意志』を現わすものとされた。 ていない新造語であるが、それは彼等の氷の如き『冷徹な批判』で は日和見主義者であり、ブルジョアに相通ずるものとして攻撃する。 の本人も分らないと秘かに思うのだが、反駁しようものなら、それ 伏のような形で討議を持ちかけてくる。『いみじくも … 資本主義の 員の闘士は福本イズムは金科玉条のように、一般の会員に向つて説 意味を判読理解することは到底出来なかつた。けれども、尖鋭な会 同時にそれは福本イスト同志の相言葉であり、これを口にしないも もそれを買い求めたが、 (一六〇頁)。新人会は、 当時の他の左翼団体同様に福本イ ズム の集 文章が生硬難解であるばかりでなく、 従つて、 新しい会 質問者 た

ら、三・一五事件により活動家を奪われた左翼組織を補充するためれつ真)。新人会は学内の一段と困難になつた運動を持続するかたわけの余波は新人会にとり巨大であつた。四月十七日文部大臣指示に件の余波は新人会にとり巨大であつた。四月十七日文部大臣指示に件の余波は新人会にとり巨大であつた。四月十七日文部大臣指示に件の余波は新人会にとり巨大であつた。四月十七日文部大臣指示に件の最近、三・一五事件の影響の大きさは、旧会員の回想の幾つかの表題に、三・一五事件の影響の大きさは、旧会員の回想の幾つかの表題に、三・一五事件の影響の大きさは、旧会員の回想の幾つかの表題に、三・一五事件の影響の大きさは、旧会員の回想の幾つかの表題に、三・一五事件の影響の大きさは、旧会員の回想の幾つかの表題に、三・一五事件の影響の大きさは、田会員の回想の幾つかの表題に、三・一五事件の影響の大きさは、田会員の回想の幾つかの表題に、三・一五事件の影響の大きさは、田会員の回想の幾つかの表題に、三・一五事件の影響の大きさは、田会員の回想の幾つかの表題に、三・一五事件のよりには、田会員の回想の幾つかの表面に、一方は、田会員の回想の表面に、田会員の回想の表面に、田会員の目前をいました。

会員は、好むと好まざるとにかかわらず白刃の権力を日夜じかに感一七一頁)、関東金属大崎支部(島野武、一六八頁)等々へ配置された新聞、産業労働調査所、青年同盟、学連書記、労働学校(内野壮児、に学外の運動にも多くの会員を送り出さねばならなかつた。無産者

ずる日常の中へとびこんでいくのである。

は、合宿生活の回想を通して垣間見ることができるのである。 旧会員がそれぞれ回想した共通項に新人会の合宿生活があること 所名に 克明に研究に没頭する」(『中央公論』昭和四年一月)と 勝義と称しては なるまい。新人会の合宿は、会の活動の拠点であつたい。学生思想問題に関心を寄せた河合栄治郎は、新人会会員らのたい。学生思想問題に関心を寄せた河合栄治郎は、新人会会員らのたい。学生思想問題に関心を寄せた河合栄治郎は、新人会会員らのたい。学生思想問題に関心を寄せた河合栄治郎は、新人会会員らのたい。学生思想問題に関心を寄せた河合栄治郎は、新人会会員らのたい。学生思想問題に関心を寄せた河合東治の発言をことで想起した、一般強部屋は真夜中でも誰かが読書によけつていて電燈の消えが、「勉強部屋は真夜中でも誰かが読書によけつていて電燈の消えが、「合宿生活の回想を通して垣間見ることができるのである。

述の対象としている。そのかなりの分量と内容の中から特に注目しら非合法へと立場を変えていく新人会と、その解散前後の状況を記和三年三、四月頃入会)の二篇からなり、大正十五年以降の半合法か時代」(大正十五年三、四月頃入会)と久保梓「解体前後の新人会」(昭料的価値は高い。第三部は、竪山利忠「革命的インテリゲンチャの料的価値は高い。第三部は、竪山利忠「革命的インテリゲンチャの

後期新人会の史実」は、第一部、

第二部以上に資

従来、新人会の解散は十分に解明されてきていない。関係者の中たいことは、新人会の解散事情についてである。

(名) 新月会の廃費に十分に廃りされてきてしたし、資料の欠乏はここからきたものである。

第二点の情報不足は、つぎのような理由から、やむをえぬことで第二点の情報不足は、つぎのような理由から、やむをえぬことで、(久保、二九三頁)となり、会員同志の横のつながりは極度に限定され、会員が相互に活動の範囲を知ることはできなかつた。同じ合宿れ、会員が相互に活動の範囲を知ることはできなかつた。同じ合宿れ、会員が相互に活動の範囲を知ることはできなかったり、経歴を新に起居を共にした会員が表現した。

は、新人会だけの活動に従事するというのではなく、読書会、消費第三点の組織の混乱について要約しよう、この時期の会員の活動

んらかの形で他の組織に所属していたという(久保、二九九頁)。員数は二百名を下らなかつたが、このうち半数以上の人びとが、なた。三・一五事件に続く豊島園事件後、再建を目指した新人会の会組合その他様々な方面にも及び、他の組織との区別が不明瞭になつ

あつたことから、この部の記述は資料的に貴重なものである。長等の地位にあり、当時の状況を全体的に把握しうる指導的立場に以上の点に鑑みて、第三部の執筆者が、新人会幹事長、学連委員

新人会は解散した。

新人会は、昭和四年十一月解散したが、本書巻末の資料篇所載の新上、以下、第三部の記述中から、解散に至るまでの過程の断面におき、以下、第三部の記述中から、解散に至るまでの過程の断面におき、以下、第三部の記述中から、解散に至るまでの過程の断面におき、以下、第三部の記述中から、解散に至るまでの過程の断面におき、以下、第三部の記述中から、解散に至るまでの過程の断面におき、以下、第三部の記述中から、解散に至るまでの過程の断面におき、以下、第三部の記述中から、解散に至るまでの過程の断面におき、以下、第三部の記述中から、解散に至るまでの過程の断面におき、以下、第三部の記述中から、解散に至るまでの過程の断面におき、以下、第三部の記述中から、解散に至るまでの過程の断面におき、以下、第三部の記述中から、解散に至るまでの過程の断面におき、以下、第三部の記述中から、解散に至るまでの過程の断面におき、以下、第三部の記述中から、解散に至るまでの過程の断面におき、以下、第三部の記述中から、解散に至るまでの過程の断面

産青年同盟、無産者新聞、学生社会科学連合会等の中枢部に吸収さの中に組み込まれていつた新人会は、その中心メンバーの多くが共に組織されていた(竪山、二五二―三頁)。このように共産党の 組織化竪山利忠も厳密なグループに入れられた。党フラクションが学生内竪山利忠も厳密なグループに入れられた。党フラクションが学生内外らである。新人会の中心分子を集めた秘密の研究会が組織され、

昭和四年十一月二十二日(国際共産主義青年同盟創立十周年記念日)に学生グループを組織した。この学生グループの組織の完了を待つて、に関するテーゼ」を受け(久保、三二一頁)、学内に 共産青年同盟の任務けた(竪山、二六五頁)。久保梓は竪山から「日本共産青年同盟の任務に、竪山、二六五頁)。久保梓は竪山から「日本共産青年同盟の任務に、竪山の場合、昭和三年十れていた。共産青年同盟の中央部にあつた竪山の場合、昭和三年十れていた。共産青年同盟の中央部にあつた竪山の場合、昭和三年十れていた。共産青年同盟の中央部にあつた竪山の場合、昭和三年十

記録である。(経済往来社(三〇〇〇円) 価値の高さは、 る その思想を選択し、自らの意思により思想を実践行動に移していた この方面の研究者に益すること甚大である。 巻末資料篇中の新人会年表は労作であり、新人会会員名簿と共に、 たからである。新なる問題を提起すればするほど、第三部の資料的 かかる疑問が生じたことも、 期の新人会に対する疑問を率直に記すものである。しかしながら、 時の新人会を『新人会』と称していいであろう かと い う疑問であ 新人会へ運動の方針が絶対命令として下されるような時期に至つた の別組織から勢力拡大の対象にされ、やがて新人会以外の所から、 時期は、「新人会」と称 してもいいであろう。しかしながら、外部 ン主義の思想を金科玉条としていたにしても、会員が自らの意思で 第三部を熟読して感ずることがある。新人会がマルクス・レ 新人会末期の事情が、かなり鮮明にされた本書を読み、この時 高められることはあつても、低められることはない。 ひとえに新しい証文を読むことができ 本書は第一級の貴重な 中村勝範・酒井正文 1 =

10三 (二二五九)